

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

群馬県地域公共交通計画の評価等結果（令和５年４月～令和６年３月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
公共交通の利用者数 （鉄道＋乗合バス）：4,276万人（R2年度）→4,745万人（R5年度）	GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。	事業者実績、陸運要覧	・R5年度実績値：5,683万人 ・コロナ禍前のH30（6,308万人）、R1（6,282万人）までは戻っていないが、R5時点でR9目標を達成した。 ・路線バスにおける交通系IC普及により利便性が向上した。	引き続き、GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。	
市街化区域内人口密度：67.3人/ha（R3年度）→66.6人/ha（R5年度）	「まちのまとまりづくり」を維持するため、市街地として望ましい人口密度（60人/ha）の維持を目標とする。	国勢調査、市町村住民基本台帳	・R5年度実績値：67.3人/ha ・基準値の現状維持	今後も、県と市町村で協力して、立地適正化計画の居住誘導区域の設定や市街化調整区域の地区計画など郊外の土地利用規制を組み合わせ、て、「まちのまとまりづくり」を進める。	
地域公共交通計画の策定市町村数：10（R4年度）→24（R9年度）	—	—	—	—	令和９年度に予定
駅周辺における乗用車交通量の平均値：6,000台（R3年度）→5,700台（R8年度）	—	—	—	—	令和８年度に予定
MaaSサービス月平均利用件数：14,000件（R3年度）→14,000件（R5年度）	GunMaaSは、R5年3月にサービスが開始され、R9年度までに利用件数の基準年度比３割増加を目指す。	利用実績	・R5年度実績値：7,203件 ・GunMaaSユーザー登録数【5,084(R5.4)→12,455(R6.3)】は増加しているものの、月利用件数は7千件前後の横ばいで推移している。	・UI/UXの改善（バスロケシステム改善、時刻表機能追加等） ・登録相談会の開催及びプロモーションの実施 ・交通のサブスクリプションモデルの実装	
運輸部門における二酸化炭素排出量：4,054千t/CO2（H25年度）→2,583千t/CO2（R5年度）	群馬県地球温暖化対策実行計画2021-2030に基づき、脱炭素化を推進したアウトカムとして、CO2排出量を評価する。2030年度までに、基準年度比(H25年度)でCO2排出量の50%削減を目指す。	担当部署へ照会	・最新実績値：3,497千t/CO2（R3年度） ・前年度比-0.2%【前年度(R2年度)：3,504千t/CO2】 ・基準年度比-13.7%【基準年度(H25年度)：4,054千t/CO2】	・基準年度からは概ね減少傾向 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大で停滞していた経済活動の再開により県内の消費エネルギーが全体的に増加傾向にあるため、運輸部門における削減率は大きくない。	
公共交通教室（バスの乗り方教室）延べ開催校数：117校（R4年度）→129校（R5年度）	県内小学校で公共交通教室を開催することにより、公共交通への理解を深め、利用促進を図る。	開催実績	・R5年度実績値：136校 ・R5年度開催実績19校	・アンケート結果より、参加者の92.3%が今後バスに乗ってみたいと回答 ・毎年の開催校数12校の目標を維持する。	

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

群馬県地域公共交通計画の評価等結果（令和5年4月～令和6年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
中高生の通学経路における自転車通行空間の整備率：13%（R1年度）→87%（R9年度）	—	—	—	—	令和9年度に予定
拠点＋公共交通ネットワーク図に位置つけた幹線の利用者数：4,021万人（R2年度）→4,455万人（R5年度）	GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。	一般乗合旅客自動車運送実績報告書	・R5年度実績値：5,408万人 ・コロナ禍前のH30（5,894万人）、R1（5,844万人）までは戻っていないが、R5時点でR9目標を達成した。 ・路線バスにおける交通系IC普及により利便性が向上した。	引き続き、GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。	
県内主要20駅におけるバリアフリー化率：78%（R4年度）→88%（R7年度）	—	—	—	—	令和7年度に予定
立地適正化計画策定市町村数：13（R4年度）→17（R9年度）	—	—	—	—	令和9年度に予定
拠点＋公共交通ネットワーク図に位置づけがない幹線以外の利用者数：256万人（R2年度）→290万人（R5年度）	GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。	陸運要覧、一般乗合旅客自動車運送実績報告書	・R5年度実績値：276万人 ・基準値R2（256万人）からは回復しているが、R5（290万人）の目標値は達成していない。 ・幹線の利用者数に比べると回復が鈍い。 ※コロナ禍前H30（414万人）、R1（438万人）	引き続き、GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。